

基本構想 骨子(案)

1. 基本構想の構成

基本構想は、目指す将来像やその実現に向けた基本的な施策の方針など、まちづくりの指針となるもので、以下のような構成となっています。

表 基本構想の構成

構成	概要
まちづくりの基本理念	まちづくりの基本となる理念や価値観を明示します。地域社会の目指すべき姿や、住民と共に実現したいビジョンを掲げることで、全体の方向性を示します
市民との3つの「白井市」の追求 (今後10年間の白井市の課題)	市民と共有する3つ根本的な価値観(「安全・安全」「健全・健康」「便利・快適」)に対して、現状分析や将来予測を踏まえて、白井市が今後10年間で対応すべき課題を明確にします。
課題から導いた白井市の目指すべきまち	白井市が今後10年間で対応すべき課題をもとに、将来的に目指すべきまちを掲げます。
10年後の将来像	10年間のまちづくりの目標やビジョンを示します。10年後の市の姿を具体的に描くことで、市民や関係者が共有する未来像を提供し、その達成に向けた努力を促進します。
将来像を実現するための 取組・推進の考え方	将来像を実現するために、「EBPM」の考え方に基づく論理的な政策の展開や進捗管理の考え方、産官学など多様な関係者との協働・役割分担について説明します。
計画フレーム (将来像実現のための指標)	計画の全体的な目標として、将来人口と将来都市像を示します。

Ⅱ. 基本構想

2. まちづくりの基本理念

まちづくりとは

「まち」をより良く「つくり」あげることです。

では、より良くとは。

白井市は何を良しとしているのか。何を理想と考えているのか。

また理想があっても、根本的に何を追求すれば理想を現実にできるのか。

それを示したものが基本理念です。

基本理念は「目的（理想）」と「（追求すべき）根本的な価値観」で構成されます。

「目的（理想）」

＋

→

基本理念

「（追求すべき）根本的な価値観」

第6次総合計画では、白井市がこれまで伝統的に目指していたものを継承しつつ、下記を基本理念として掲げます。

目的（理想）

「市民の豊かさと幸せ」

（追求すべき）根本的な価値観

「安全・安心」

「健全・健康」

「便利・快適」

そのため「市民一人ひとりがそれぞれの豊かさと幸せを実感」するために、

- ・安全で安心な白井市
- ・健全で健康な白井市
- ・便利で快適な白井市

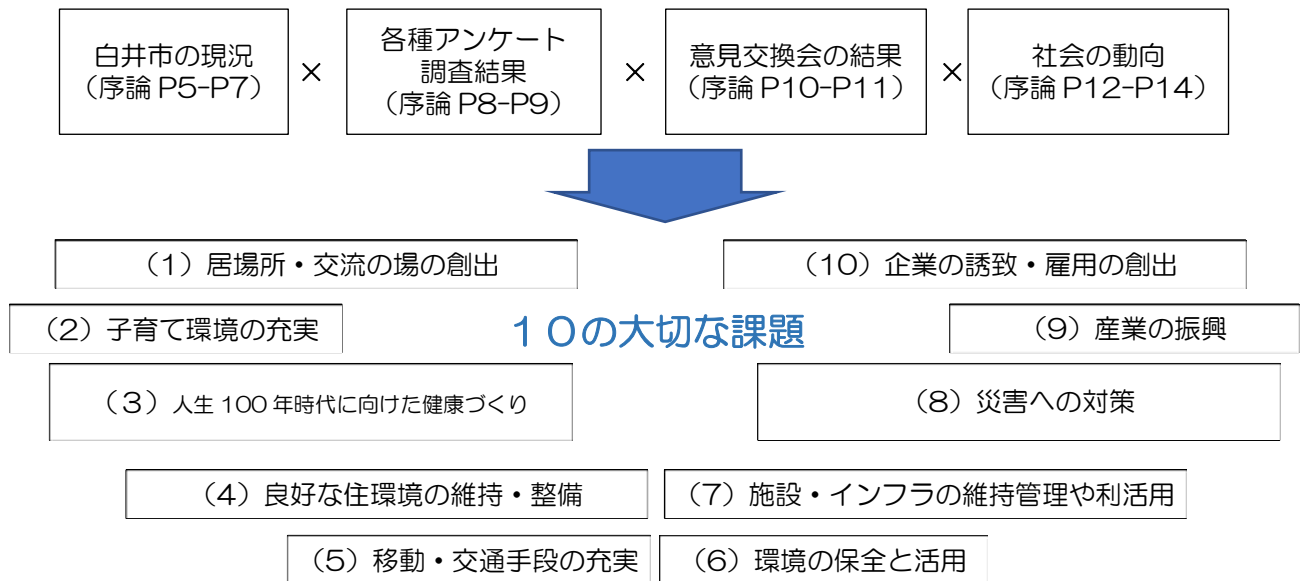
この3つの「白井市」を追求します

白井市の主体は市民です。

そのため、まちづくりは市民の力で進めていく必要があります。

この3つの「白井市」についても市民と共に追求していきます。

3. 市民との3つの「白井市」の追求（今後10年間の大切な課題）



(1) 居場所・交流の場の創出

(2) 子育て環境の充実

(3) 人生100年時代に向けた健康づくり

(4) 良好な住環境の維持・整備

(5) 移動・交通手段の充実

(6) 環境の保全と活用

(7) 施設・インフラの維持管理や利活用

(8) 災害への対策

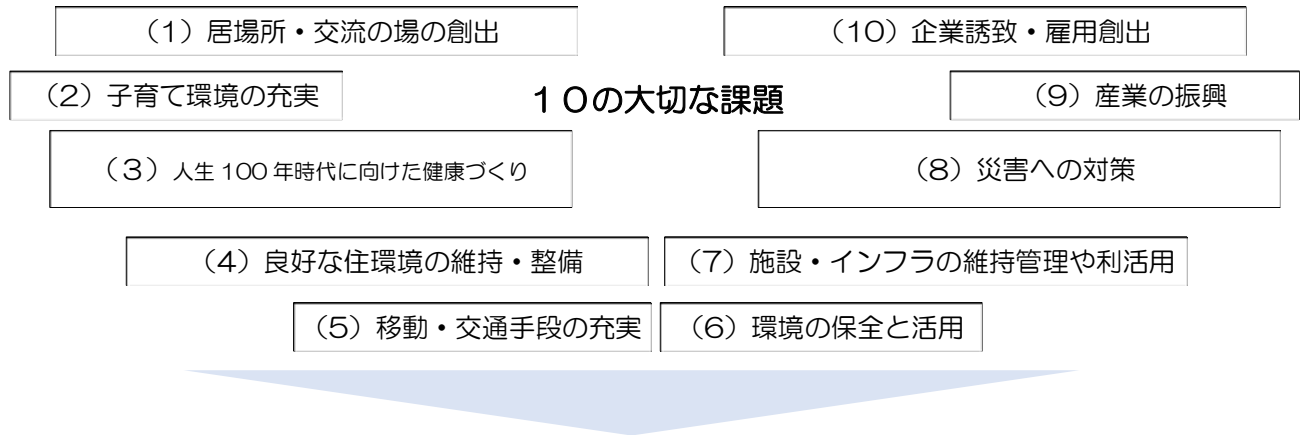
Ⅱ．基本構想

(9) 産業の振興

(10) 企業の誘致・雇用の創出

4. 課題から導いた白井市の目指すべきまち

市民参加型ワークショップで出た意見、市民アンケートを分析した結果、世の中の社会情勢、白井市に関する各種データを考慮し、白井市にとっての課題と重要なテーマを次のように掲げます。



目指すべきまち

①新しい産業が栄えるまち

③若い世代が定住するまち

⑤白井らしい環境が残るまち

②自ら学び育ち挑戦できるまち

④災害に強いまち

⑥交流し 支え合うまち

II. 基本構想

5. 10年後の将来像

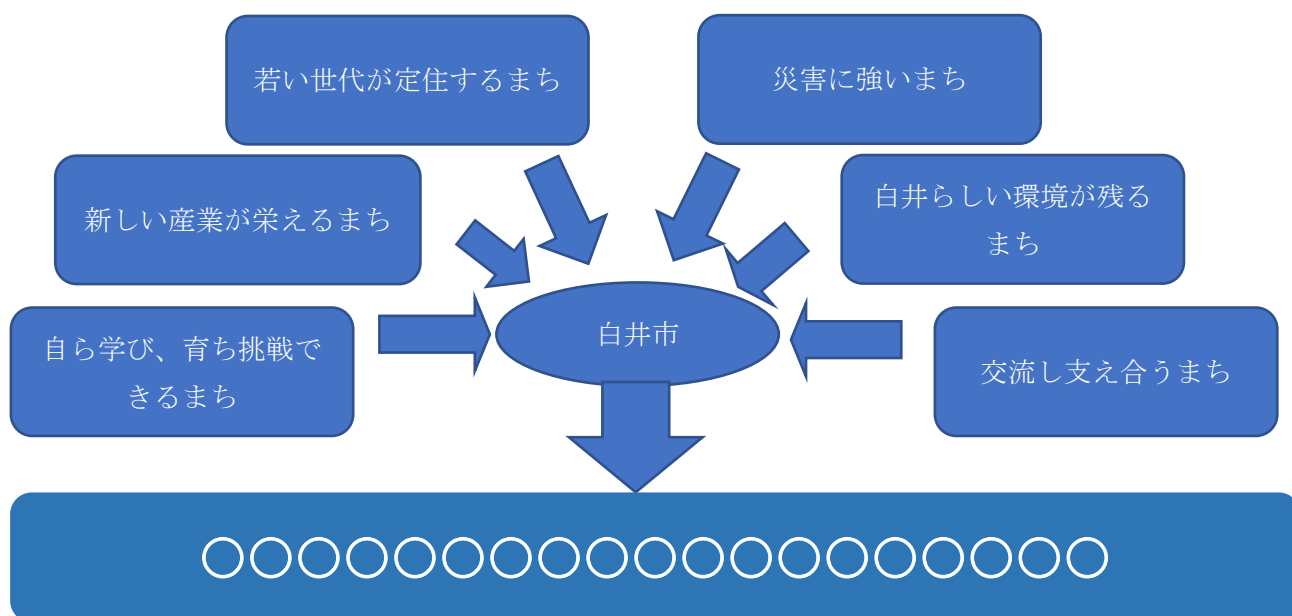
10年後の白井市の将来像とは、掲げた白井市の目指すべきまちを推進した未来の白井市の姿を定めたものです。

言わば、市民の願いが込められた、白井市の理想像です。

将来像を掲げることで、白井市の価値を対外的に発信し、かつ市民が一人ひとりのまちづくりへの意識を高める狙いがあります。

将来像には白井市の未来作戦会議で子どもたちから出た「理想の白井市」を散りばめました。

未来の主役の子どもたちのための理想を掲げることで、より市民一体となってまちづくりを推進します。



サブスローガン

挑戦する らしさを守る

6. 将来像を実現するための取組・推進の考え方

(1) EBPMの考え方に基づく論理的な政策展開

EBPM（エビデンス・ベースド・ポリシー・メイキング）とは、「エピソード・ベース」（たまたま見聞きした事例や経験（エピソード）のみに基づく）による政策立案ではなく、「エビデンス・ベース」（変化が生じた要因についての事実関係をデータで収集しどのような要因がその変化をもたらしたかをよく考え、データで検証）による政策立案を行おうとする考え方です。こうした考え方に基づいて政策を展開することで、より効果的な取組の推進が期待できます。

(2) ロジックモデルの活用

EBPMを実現するためのその方法の一つとして、ロジックモデルの活用が挙げられます。ロジックモデルとは、政策の目標や成果（アウトカム）や活動目標（アウトプット）、活動（アクティビティ）を視覚的に整理し、因果関係を明確にするフレームワークです。

ロジックモデルを作成する際には、施策により最終的に達成したい状況（＝最終アウトカム）の検討からはじめることが原則です。その上で、その最終的に達成したい状況を実現するためには何が必要か、という観点から逆算して中間アウトカム、初期アウトカム、アウトプットや活動、そのために必要な資源を検討します。

第6次総合計画ではロジックモデルを用いて、基本構想で設定した将来像を実現するための取組を、基本計画の中で論理的にわかりやすく体系化していきます。

現状把握 ・課題設定	インプット (資源)	アクティビティ (活動)	アウトプット (活動目標・実績)	アウトカム (成果目標・実績)	インパクト (国民・社会への影響)
事業を行う背景(現状)、解決すべき問題・課題	事業実施のために投入する予算等	実施する事業の内容	事業の活動目標・実績	事業活動を通じて得られる成果目標・実績。必要に応じて、事業活動の波及効果の時間軸に沿って、短期・中期・長期などと区分できる ※短期アウトカムは事業活動を通じて期待される短期的成果、中期・長期アウトカムはそれぞれ短期的成果・中期的成果の後に波及的に期待される成果を言う	事業活動を通じて実現すべき最終目的

出典:内閣府 HP

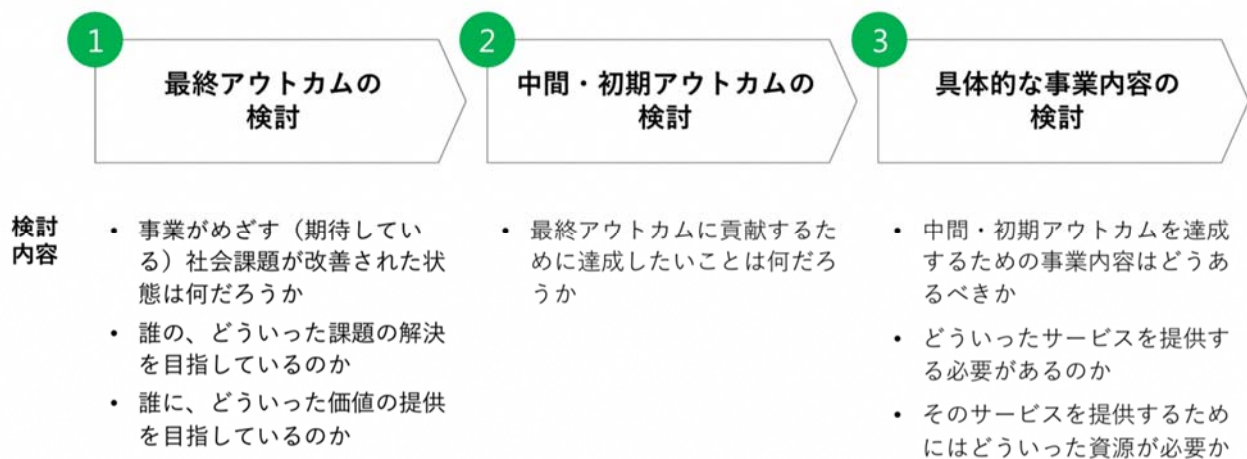
参考図 ロジックモデルの考え方

II. 基本構想



出典:「ロジックモデル作成ガイド」(日本財団)

参考図 ロジックモデルの考え方作成イメージ



出典:「ロジックモデル作成ガイド」(日本財団)

参考図 ロジックモデル作成の流れ

(3) 多様な主体との連携・協働によるまちづくり

これまで、将来的な人口の減少や高齢化の進展などにより厳しい財政状況が予想される中、自主財源の確保や事業の選択と集中による効果的な財源配分を進め、効率的で持続可能な行財政運営に努めてきました。また、市民はまちづくりの主役であり、市民と行政がそれぞれの特性を活かした役割分担や連携の下で、協働して、白井市らしいまちづくりを目指してきました。

今後、社会情勢や市民ニーズの多様化・深化に伴い、脱炭素社会の実現や人手不足に対応するための先進技術の導入、デジタル技術の活用といった課題に対応するためには、より専門的な知見を有するパートナーとの連携・協働が重要となります。

そこで第6次総合計画においては、これまでの取組に加えて、市外のパートナーとの連携・協働を前提とした情報共有（シティプロモーション）を展開するとともに、公民連携によって具体的な取組を進めていくものとします。

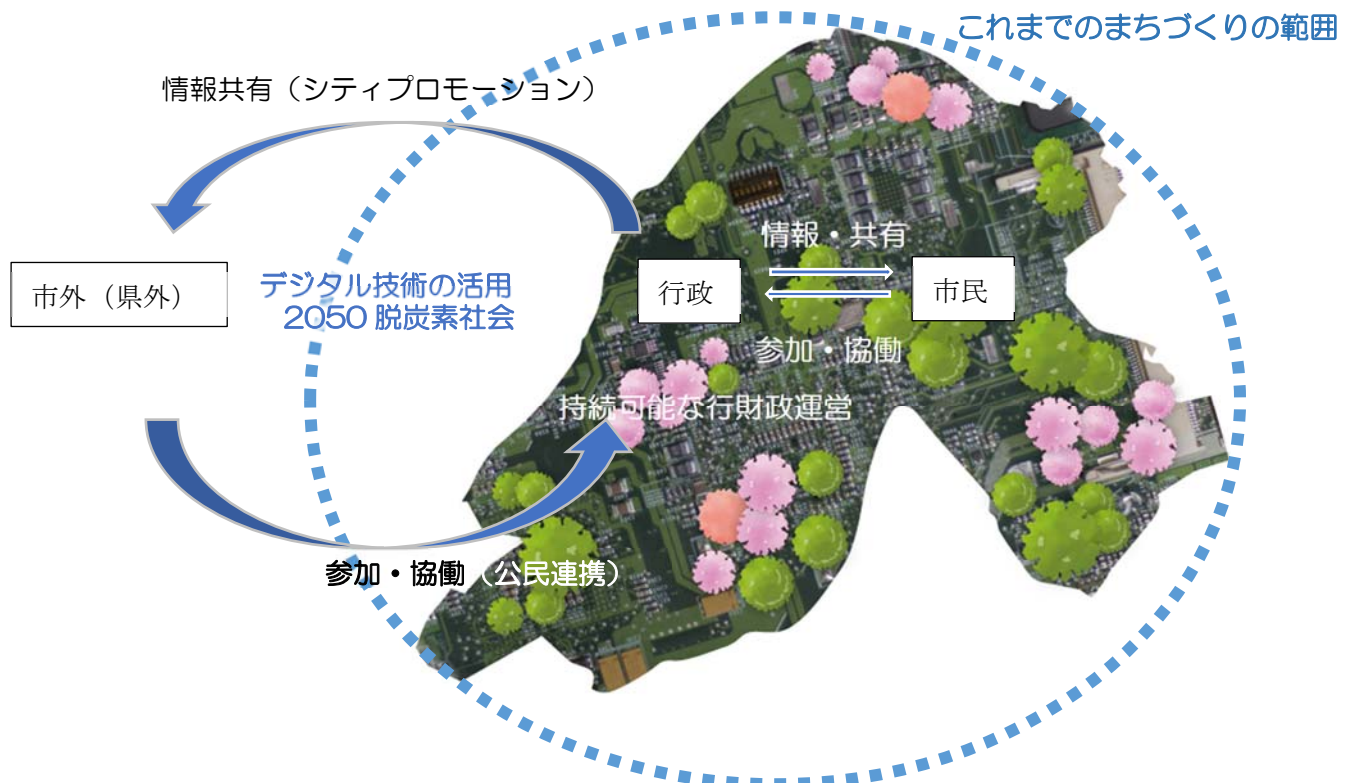


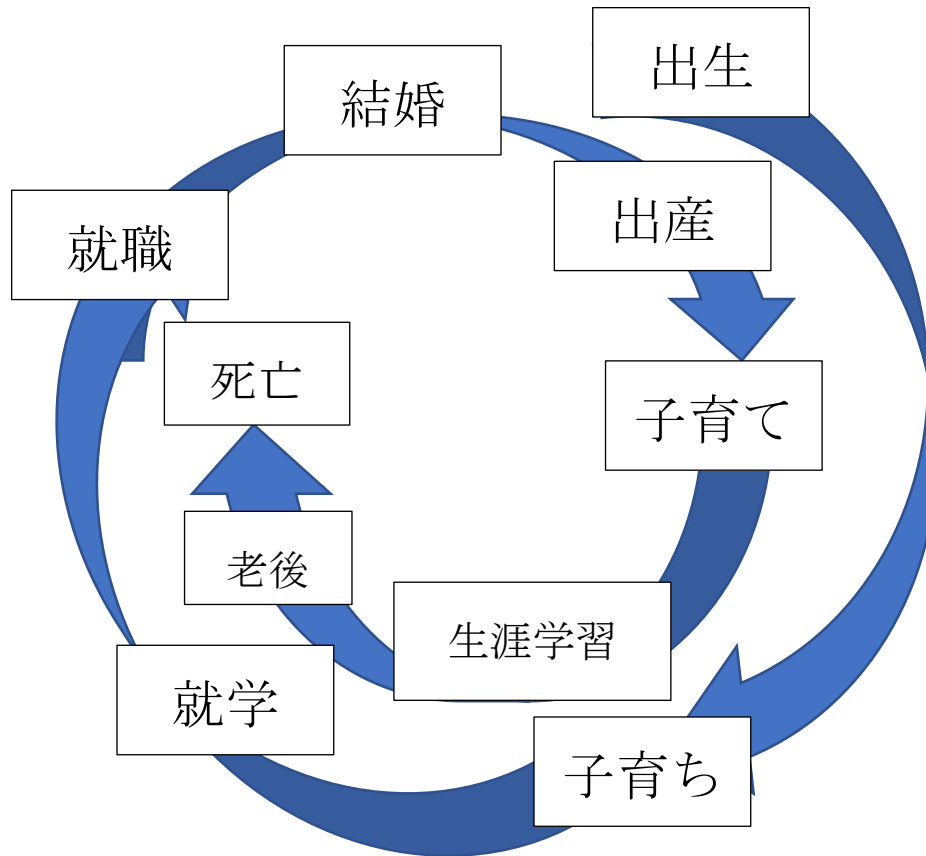
図 多様な主体との連携・協働によるまちづくりのイメージ

Ⅱ．基本構想

(4) 各ライフステージの切れ目ない支援

母子保健法、児童福祉法など様々な法を根拠に支援を行っておりますが、所管庁が異なるため、どうしても縦割りになりがちです。

切れ目ない支援の実現のために、組織に縛られない支援の在り方を探求し、実現します。

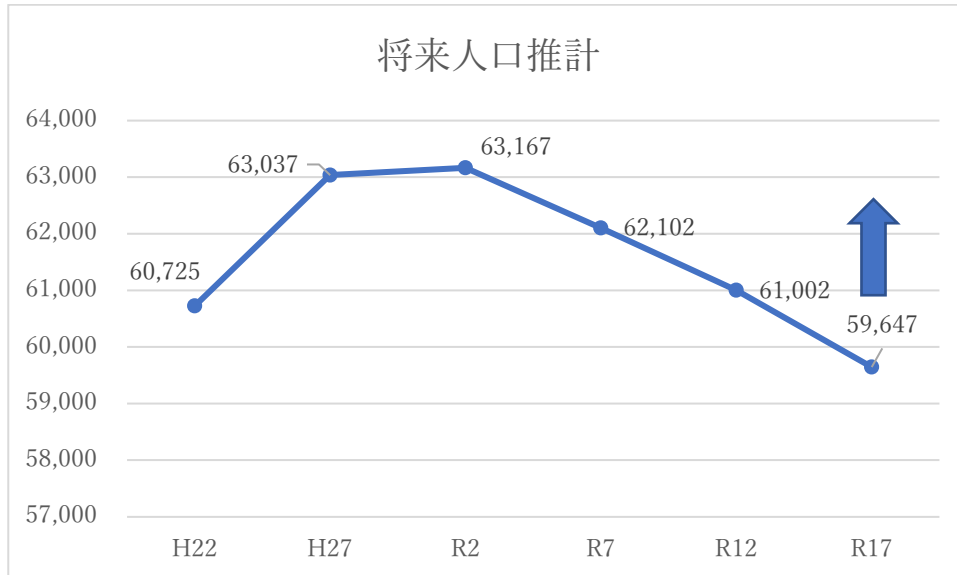


6. 計画フレーム（将来像実現のための指標）

6.1 将来（目標）人口

目標人口 未定

参考：前回計画目標人口 65,500人



国立社会保障・人口問題研究所 令和5年推計

Ⅱ. 基本構想

6.2 将来都市構造

